



足元の運用状況と今後の運用方針について

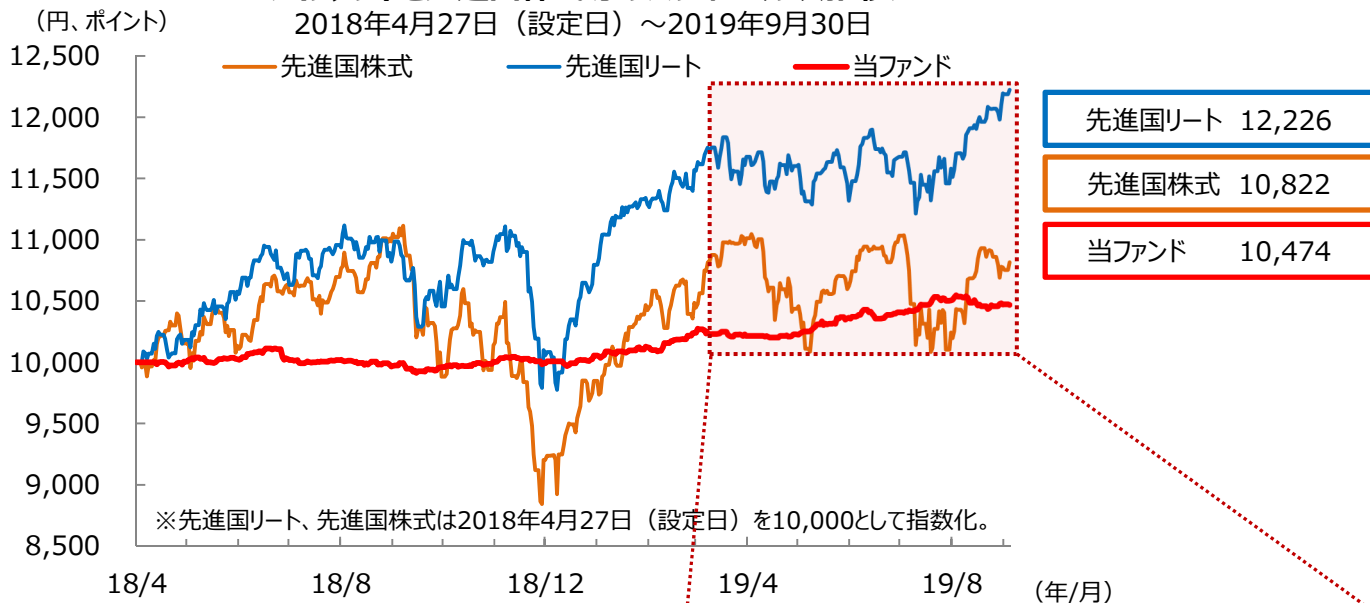
平素は「大和住銀 先進国国債ファンド (リスク抑制型) (愛称：未来のコツ)」(以下、当ファンド) をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。当ファンドは設定来概ね堅調に推移しており、当レポートでは、足元の運用状況と今後の運用方針等についてご説明いたします。

世界的な金利低下を背景に当ファンドは堅調に推移

- 米中貿易問題が先行き不透明な中、世界景気の減速を示す統計指標も一部見受けられ、米国では7月に10年半ぶりの利下げが行われるなど主要国では金融緩和の動きが続いています。国債市場では利回り低下に伴い債券価格が上昇傾向で推移しています。
- そのような中、当ファンドの直近6か月間のリターンは+2.0%となっています。当ファンドは、世界の金融市場が不安定になった局面など一時的に基準価額が下落する場面もありましたが、価格変動(リスク)は年率2.1%と他の資産と比較して相対的に安定しています。

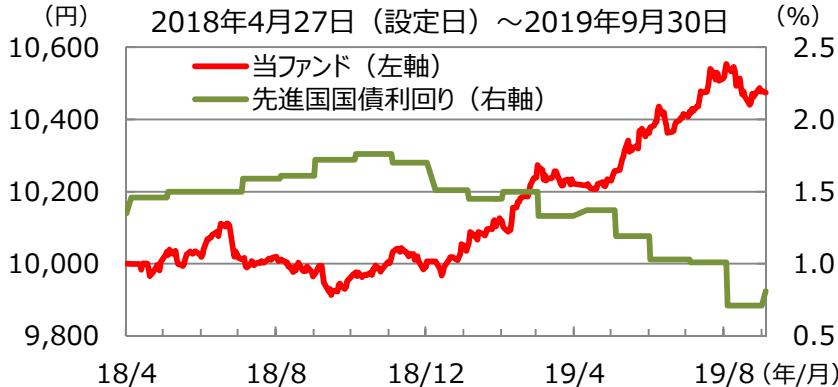
<当ファンドと先進国株式等のパフォーマンス推移>

2018年4月27日(設定日)～2019年9月30日



<先進国国債利回りと当ファンド>

2018年4月27日(設定日)～2019年9月30日



<直近6か月間のパフォーマンス>

2019年3月末～2019年9月末

	先進国リート	先進国株式	当ファンド
リターン(6か月)	+5.3%	+2.4%	+2.0%
リスク(年率)	11.7%	15.9%	2.1%
リターン/リスク	0.96	0.32	2.00

※リターン/リスクはリターン(年率換算値)÷リスク(当該期間の日次リターンから算出した標準偏差の年率換算値)により算出。

(注1) 上グラフおよび左下グラフの当ファンドは、1万口当たり、信託報酬控除後の基準価額。2019年9月30日現在において分配を行っておりません。

(注2) 先進国国債：FTSE 世界国債インデックス(円ヘッジベース)、先進国リート：S&P先進国REITインデックス(円ベース、配当込み)、先進国株式：MSCIコクサイ・インデックス(円ベース、配当込み)。各指数は当ファンドのベンチマークではありません。

(出所) FactSet、Bloombergのデータを基に委託会社作成

※ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果および市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。

※ ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは5ページおよび投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

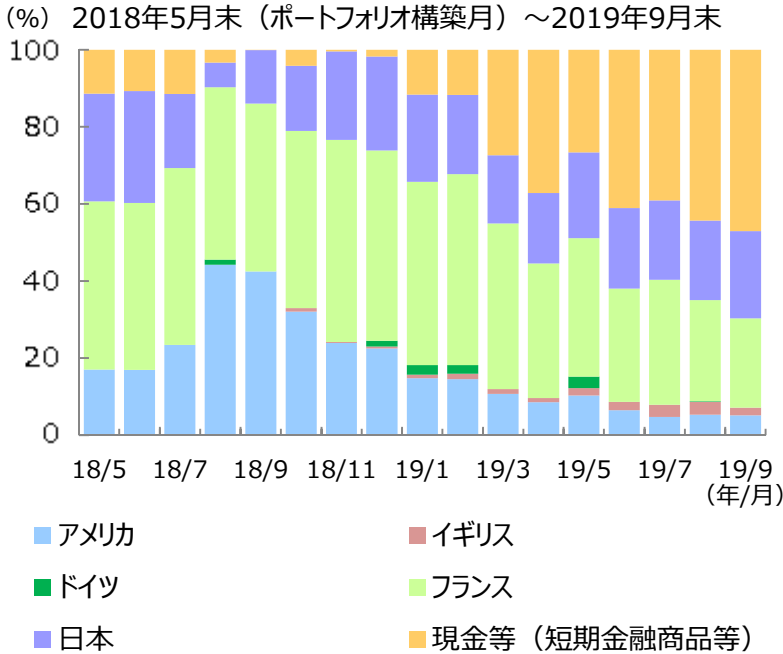
愛称
未来のコツ

※課税上は株式投資信託として取り扱われます。



歴史的な低金利の環境下、値動きを年率2%程度に抑えた運用を継続

＜国債の国別配分比率の推移（マザーファンド）＞



- 世界的な金利低下により債券価格の上昇が続いています。こうした投資環境の下、当ファンドはフランスや日本を中心に国債のリスク量*を高めにつつ、為替とのオフセット（相殺）効果を勘案し、配分を調整しています。
- 当ファンドではリスク対比で利回りが高い超長期国債への投資比率を引き上げ、全体のリスク（値動き）を年率2%程度に抑えるために現金等（短期金融商品等）の比率を高めています。
- 当ファンドにおけるキャリー収益の源泉となる年率期待利回りは9月末で0.3%と低位で推移しています。

* 投資比率にリスク（ボラティリティ）を掛けリスクを数値化したもの。

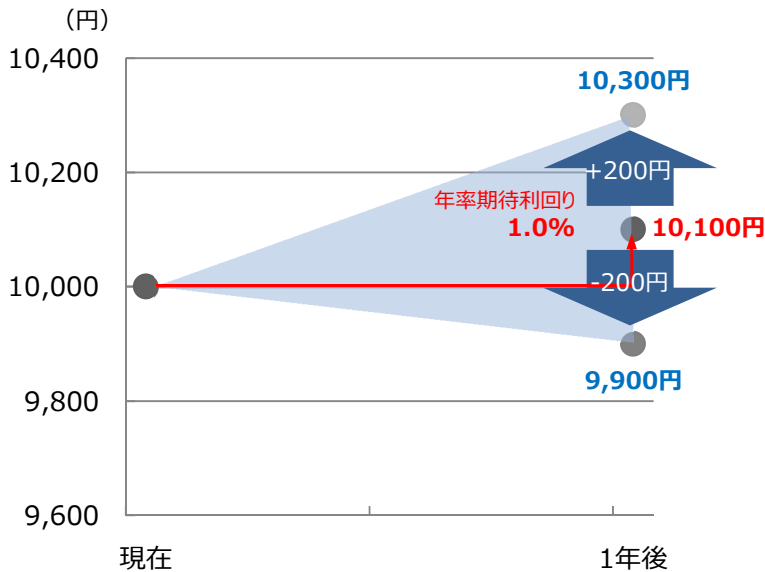
(注) 年率期待利回りは債券の利息収益と債券価格の予想上昇率（右肩上がりのイールドカーブの形状が変化しない状況において、債券の利回りが時間の経過とともに低下し、債券価格が上昇する効果によるもの）等の合計（為替ヘッジコスト控除後・キャリー収益）。当該数値は試算日時点で市場動向等が変化しなかった場合に得られると期待される利回りで、市場動向等の変化により値は変化します。したがって、当該数値は将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

※ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果および市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。

※ 年率期待利回りを基にした当ファンドの値動きの考え方については、下段をご覧ください。

＜ご参考＞ 年率期待利回りと当ファンドの値動きの考え方（イメージ）

＜基準価額が10,000円、年率期待利回りが1.0%と仮定した場合＞



- たとえば基準価額が10,000円、年率期待利回りが1.0%と仮定した場合の、当ファンドの値動きについて見てみます。
- 市場動向等が変化しなかったと仮定した場合、1年後の基準価額の期待値は約10,100円（= 10,000円 × (1+1.0%））となります。
- 当ファンドは全体のリスク（値動き）を年率2%程度に抑える運用を行うため、基準価額が10,100円の±200円*の範囲（9,900円～10,300円）に収まるようなポートフォリオの構築を目指します（ただし、これらは統計上の値であり、市場動向等の変化により値動きが当ファンドの目標値である年率2%を超える場合もあります）。

* 現時点の基準価額10,000円に対する±2%。

(注) 上記は年率期待利回りと当ファンドの値動きの考え方におけるイメージであり、実際のファンド運用とは異なります（信託報酬等の費用は考慮していません）。

※ 年率期待利回りは市場動向等の変化により値は変化します。したがって、当該数値は将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

※ 市場動向等によっては値動きが当ファンドの値動きの目標値である年率2%を超える場合もあります。

※ この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。



足元の相場環境と今後の運用方針

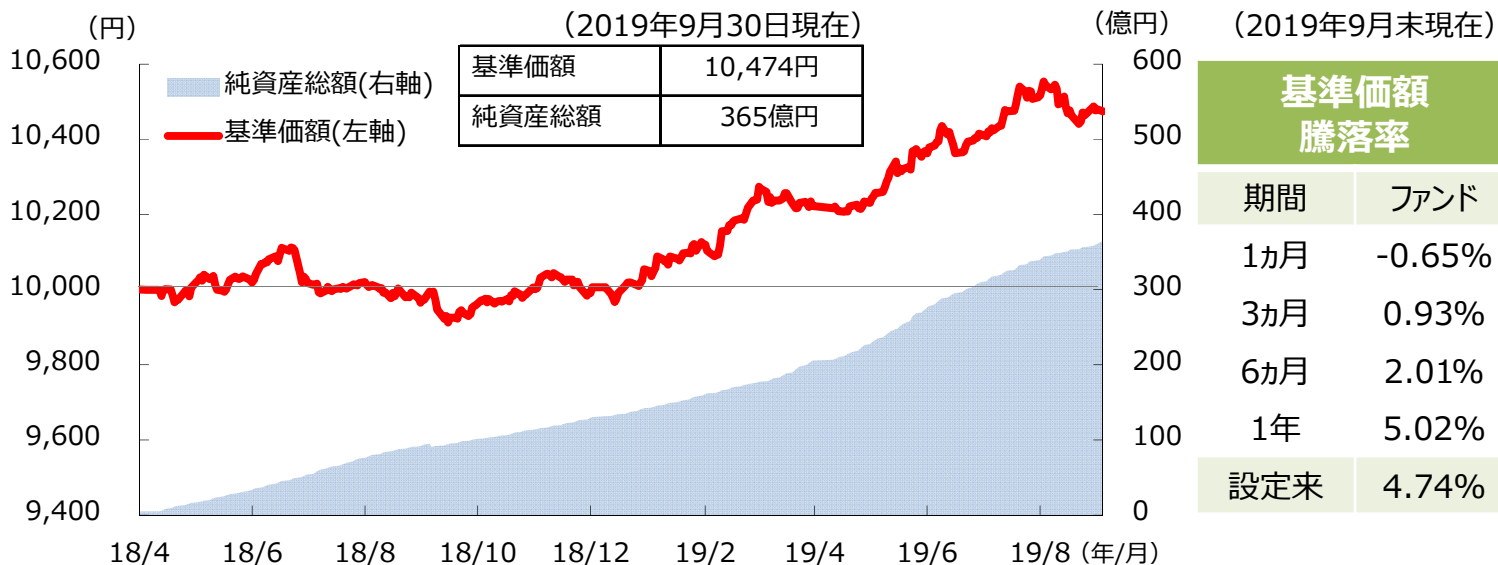
<足元の相場環境>

- 米中貿易問題が不透明な中、投資家がリスク志向を強める局面もあり国債利回りは上昇（価格は低下）しています。今後は一時的な金利上昇局面はあるとしてもイールドカーブの正常化には時間を要するとみられます。
- 米中の関税報復の連鎖は互いに回避することが想定されるものの、不透明要因としての政治リスクが残る中で先進国ではユーロ圏を中心に景気減速を示す統計指標が一部見受けられることなどから、金利は上がりづらい状況が続くものと考えています。そのため、債券相場は金利の低下に伴う価格の上昇から中期的にはポジティブに見ています。

<今後の運用方針>

- 金利が上昇した後にボラティリティ（価格変動性）が落ち着く局面では、高位に維持している現金から利回りの高い国債へと組入比率を変更することにより、中長期的なリターンを獲得を目指します。米中貿易問題や世界景気の減速懸念などの不透明要因はありますが、当ファンドでは引き続き基準価額の変動リスク（値動き）を年率2%程度に抑えることを目指し、市場環境の変化に応じて為替ポジションや現金を機動的に調整する運用を継続する方針です。

基準価額・純資産総額の推移 2018/4/27（設定日）～2019/9/30



(注1) 基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後のものです。

(注2) 当ファンドは2019年9月30日現在において分配を行っておりません。

(注3) 基準価額の騰落率は、実際の投資家利回りとは異なります。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

※ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは5ページおよび投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

愛称
未来のコツ

※課税上は株式投資信託として取り扱われます。



ファンドの目的

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、主として日本を含む先進国の国債に投資することにより、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。

ファンドの特色



主として日本を含む先進国の国債に投資します。

- ◆先進国国債(リスク抑制型)マザーファンドを通じて日本、アメリカ、ドイツ、フランス、イギリスなどの先進国の国債を主要投資対象とします。
- ◆投資魅力の高い残存年数の国債を選択し安定性を重視した運用を行います。
- ◆実質組入外貨建資産については、投資環境に応じて対円での為替ヘッジを行い、一部または全部の為替リスクの軽減を図ります。
- ◆為替を一部組み入れることで、金利変動による損益を相殺し、収益の安定化を図ります。

※組入外貨は原則として米ドル、ユーロ、英ポンド、豪ドル、カナダドルとします。



基準価額の変動リスクを年率2%程度に抑えることを目標とします。

- ◆市場環境の変化に応じて為替ポジションを機動的に調整しリスクをコントロールします。
- ◆ポートフォリオ全体のリスクにターゲット(年率2%程度)を設定し運用を行います。
 - 投資魅力が高い国債と為替・現金を機動的に組み合わせることで、リスクをコントロールします。



毎年4月15日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、分配方針に基づき分配金額を決定します。

- ◆委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

当ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。
(基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。)

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

愛称
未来のコツ

※課税上は株式投資信託として取り扱われます。



投資リスク

くわしくは最新の投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

- 当ファンドは、マザーファンドを通じて、実質的に債券など値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。また、外貨建資産は、為替の変動による影響も受けます。したがって、投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。
- お申込みの際には、販売会社からお渡しします最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- 基準価額を変動させる要因として主に、●金利変動に伴うリスク ●信用リスク ●為替リスク ●流動性リスク ●カントリーリスク があります。
ただし、上記の説明はすべてのリスクを表したものではありません。

ファンドの費用

くわしくは最新の投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に 1.1% (税抜1.0%) を上限 として販売会社毎に定めた率を乗じて得た額とします。 ※詳細については、お申込みの各販売会社までお問い合わせください。 購入時手数料は、販売会社による商品・投資環境の説明および情報提供、ならびに販売の事務等の対価です。
信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	毎日、信託財産の純資産総額に 年率0.528% (税抜0.48%) を乗じて得た額とします。 運用管理費用(信託報酬)は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払われます。 <運用管理費用(信託報酬)の配分>									
	<table border="1"> <tr> <td>委託会社</td> <td>年率0.25%(税抜)</td> <td>ファンドの運用等の対価</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>年率0.20%(税抜)</td> <td>購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>年率0.03%(税抜)</td> <td>運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価</td> </tr> </table>	委託会社	年率0.25%(税抜)	ファンドの運用等の対価	販売会社	年率0.20%(税抜)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価	受託会社	年率0.03%(税抜)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
委託会社	年率0.25%(税抜)	ファンドの運用等の対価								
販売会社	年率0.20%(税抜)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価								
受託会社	年率0.03%(税抜)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価								
その他の費用・手数料	財務諸表の監査に要する費用、有価証券売買時の売買委託手数料、外国における資産の保管等に要する費用等は信託財産から支払われます。 ※監査報酬の料率等につきましては請求目論見書をご参照ください。監査報酬以外の費用等につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。									

※上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

愛称 未来のコツ

※課税上は株式投資信託として取り扱われます。



お申込みメモ

くわしくは最新の投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

信託期間	無期限(2018年4月27日設定)
購入単位	お申込みの販売会社までお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
換金単位	お申込みの販売会社までお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額。換金代金は、原則として換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
決算日	毎年4月15日(該当日が休業日の場合は翌営業日)
購入・換金申込受付不可日	ありません。 ※ただし、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、ご換金の受付を中止することがあります。

その他の留意点

●分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

委託会社およびその他の関係法人

●委託会社(ファンドの運用の指図を行う者)

三井住友DSアセットマネジメント株式会社……金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

●受託会社(ファンドの財産の保管及び管理を行う者) ……三井住友信託銀行株式会社

●販売会社(ファンドの募集・販売の取扱い等を行う者) ……次ページをご覧ください

愛称
未来のコツ

※課税上は株式投資信託として取り扱われます。



販売会社一覧

(2019年9月30日現在)

取扱販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
岡三オンライン証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第52号	○	○	○	
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号	○		○	
寿証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第7号	○			
静岡東海証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第8号	○			
株式会社中京銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第17号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号	○		○	
株式会社ゆうちょ銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第611号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

(50音順)

【重要な注意事項】

- 当資料は三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および目論見書補完書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等は販売会社にご請求ください。

作成基準日：2019年9月末